

意外と身近な「官衙」の遺跡

埼玉県立歴史と民俗の博物館 展示担当 学芸員 堀口智彦

7世紀後半から10世紀頃にかけての律令体制^{りつりょう}の中で、全国の国・郡には地方支配のための拠点^{りつりょう}が整備されました。「国府」「郡家」に代表されるこれらの施設の遺跡は、「官衙遺跡」と今日呼ばれています。企画展「埼玉の官衙—律令時代の“お役所”—」では、県内の官衙や関連遺跡の調査成果から、官衙の実態や果たした役割などについて紹介しました。

役所を意味する「官衙」という言葉は現代ではあまり使われることがなく、私たちにとってなじみ深いものではありません。展示の準備にあたって、「官衙」となっていたり「かん…これは何ですか」と聞かれたりしたことも多く、「果たしてどれだけの人の興味を惹くことができるのだろうか」という不安を常に感じていました。蓋を開けてみれば、講演会の受付は数日で満員となり、展示解説ブックレットも会期終了を待たずに売り切れてしまうなど、想像をはるかに超える反響がありました。この分野への潜在的な関心の高さに非常に驚いた、というのが率直な思いです。

県内には国府がないため、郡家の調査成果から当時の役所の姿を紹介しました。郡家の所在地がわかっていない郡も多く、展示の軸になったのは深谷市と熊谷市にまたがる「幡羅^{はら}官衙遺跡群」の出土資料でした。古代幡羅郡の郡家跡であるこの遺跡は、平成30年2月に国の史跡に指定されました。保存状況がよく、役所や周辺の寺院、祭祀場の出現から廃絶までを連続的に追える貴重な遺跡です。この他、幡羅郡の西隣にあった榛沢郡^{はんざわ}の郡家跡では、税として納められた穀物を保管した倉庫が復元整備されており、当時の雰囲気^{はんざわ}を視覚的に感じることができます。道の駅おかべに隣接するアクセスのよい場所ですので、近くにお出かけの際はぜひお立ち寄りください。

郡家の調査成果を見ると、官衙は限られた場所にしかない特別な遺跡というイメージを受けるかもしれません。しかし、当時の社会において「官衙の影響を受けていない遺跡はない」とも言われるように、発掘調査によって多くの官衙に関連する遺跡が見つかっています。平成14年(2002)に埼玉考古学会が発行した『坂東の古代官衙と人々の交流』には、現在の県内63市町村のうち、29市町の遺跡が官衙や関連遺跡として掲載されています。この本は武蔵国内を対象としたものであり、下総国内の遺跡や調査例の増加を考慮すると、その数は更に多くなるでしょう。低地が多い東部では遺跡数が少ない傾向がありますが、半数以上の市町村に所在していることとなります。

今回の展示で取り上げた資料は、これまでに県内で実施された発掘調査成果のごく一部でしかありません。そのため、お住まいの市町村の近くの遺跡を調べてみると、意外と身近に官衙に関連する遺跡が存在しているかもしれません。埼玉県内における官衙の調査・研究はまだ途上であり、今後も盛り上がっていく分野だと考えています。この展示をきっかけに官衙に興味を持たれた方がいらっしゃるならば、担当者としては望外の喜びです。

今後のイベントスケジュール *申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

○3月13日 (水)	プレミアム講座「地域に寄り添った旗本の話」	<前号で紹介>
○3月16日 (土)	講演会「蘇我氏の興亡」	<前号で紹介>
○3月27日 (水)	見学会「春風にのって蔵の街めぐり栃木と結城」	<前号で紹介>
○3月30日 (土)	第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3 (延期分)	<前号で紹介>
○4月14日 (日)	まち歩き研究会「大本山増上寺と東京タワー」	<今号で紹介>
○4月21日 (日)	講演会「海の正倉院・沖ノ島」	<今号で紹介>
○5月8日 (水)	まち歩き研究会「志木の富士塚と舟運遺産」	<次号で紹介>
○5月18日 (土)	古道探索倶楽部「日光街道あるき その1」	<次号で紹介>
○5月25日 (土)	友の会総会・講演会	<次号で紹介>

「幡羅官衙遺跡群と武士の本拠地」見学会

2019 (平成 31) 年 1 月 23 日に見学会 41 名が参加

今回の友の会見学会は、開催中の企画展「埼玉の官衙」— 律令時代のお役所— に関連させて、この幡羅官衙遺跡群見学をメインテーマに実施しました。大寒直後にもかかわらず無風快晴の穏やかな一日、友の会テルテル坊主のお蔭です。現地では熊谷市側で発掘調査に関わられている江南文化財センター所長の吉野先生にお願いしました。遺跡群は「幡羅官衙遺跡」「西別府遺跡」「西別府祭祀遺跡」「西別府廃寺」の4遺跡で構成されています。遺跡近くの公民館で遺跡全体の概要と展示されている出土品についての解説を聴いた後、現地を巡りました。発掘調査は一段落したところで遺構は全て土の中、一面の畑や森から先生の解りやすいお話によって古代の官衙景観が浮かび上がってきました。将来はVRテクノロジーを応用した現地での景観再現も夢ではないでしょう。

見学会後半は、律令体制が崩壊した後を受け、当地一帯を本拠として開発に携わり、中世から戦国期に活躍した武士たちの館跡やゆかりの寺社を訪ねました。別府氏館跡は四方に土塁や堀が完璧に残る希少な遺構、中条氏館跡に建つ天台宗古刹常光院では茅葺の本堂でご住職から鎌倉時代からの歴史を聴いたり、成田氏ゆかりの上之村神社では忍城主成田長泰奉納の金箔漆塗りの社殿扉を社務所内で特別に拝観させていただくなど友の会ならではの貴重な体験が出来ました。(中村 記)

保存と修復から仏像を再考する

2019 (平成 31) 年 2 月 23 日に講演会 128 名が参加

信仰の対象でありながら現在では美術工芸品としても鑑賞される仏像。これを修復する専門家の立場からみた仏像というユニークな講演会が開催されました。講師の吉備文化財修復所の牧野隆夫氏は地元大宮にお住まいで大宮公園を散歩して体力維持に努めているそうです。講演では、自身の体験をもとにした— 仏像の伝来、仏像の再興の実際、神仏分離での仏像の破壊と復権 (仏像の未来)

— などについて興味深い仏像のお話しを幅広くうかがうことができました。

仏像の将来については、静岡県中野観音堂の千手観音の保存修理の実際や山形県の出羽三山神社歴史博物館での保存などを紹介いただきました。今後も、長い歴史を持つ仏像ひとつひとつを主人公として、その「大河ドラマ」性を考え、医者が人間に医術を行うように仏像に接していきますとのことでした。



新年度「会員更新」手続きのお願い

- ・新年度（2019/04～2020/03）友の会の会員募集中です。まだ更新がお済みでない会員の皆様には継続更新のお手続きの程宜しくお願い致します。この会報に振替払込用紙を同封致しましたのでお近くのゆうちょ銀行にて年会費2千円をお振込ください。4月から払込手数料の値上げがありますので、お早めにどうぞ。なお、土日に関く博物館ロビーの友の会受付、友の会主催講演会、見学会の受付にても承ります。

予 告！

交わり 楽しみ 学びあう……友の会研究会が発足します

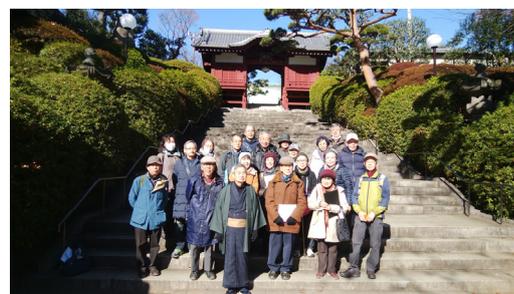
現在活動中のクラブ活動に加え、特定のテーマのもとに関く座学や座学とフィールドワークを組み合わせた「研究会」が発足します。目下「円空仏研究会」と「古代文化を考える会」の2つが立上げ準備中です。詳細まともり次第「JUNO」にてご案内いたしますのでご期待ください。

クラブ活動 （活動報告と募集案内）

護国寺と2つの富士塚を見学

まち歩き研究会 1月18日に開催

今回は護国寺から雑司ヶ谷墓地を通って池袋の富士塚へというコース。寒い中ですが26名が豊島区の護国寺仁王門前に集合しました。護国寺は台地上の立地がよく大きな火災や地震、戦災によっても被害を受けていません。江戸初期の重要建築物がそのまま保存されたまれに見る貴重な文化財です。創建当時のままの観音堂（本堂）はこの日、御開帳でした。護国寺境内には富士塚「音羽富士」があり、ここが富士塚巡りの1カ所目です。もともとは護国寺内の別の場所にあった



富士塚（1817年ころの構築）のようです。鳥居から始まり、合目石、烏帽子岩、御胎内など富士塚のすべての要素が備わった堂々たる御山です。次いで、これも古い護国寺の惣門をくぐって富士見坂にでてから、すぐ隣にある都営霊園の雑司ヶ谷墓地に。付近は江戸時代の御鳥見役の屋敷があった場所で周囲も鬼子母神道など情緒のある古道になっています。墓地には多くの文化人が眠っています。

南池袋公園で休んだ後、地下鉄で豊島浅間神社の富士塚に。密集した民家の中に埋もれるようにある神社ですが、富士塚は大きく立派です。昔は長崎町ですので「長崎富士」といいます。最大の特徴は江戸末期の文久2年（1863年）に造成された当時の様子がよく残っていること。国の重要有形民俗文化財に指定されています。この日は豊島区役所文化財課を通じて保存会の本橋さんに来ていただき、中に入り、希望者は山頂に登ることもできました。お話しではこの地には古くからの塚（古墳？）があったそうで、銅鏡が出たことが契機になって地元の富士講の人たちがこのような見事な富士塚を建設したということです。信仰心の強さと心の豊かさがわかります。（筑井 記・ブログもご覧ください）

◆大本山増上寺と東京タワー◆

2019(平成31)年4月14日(日)に「まち歩き研究会」

《日時》2019年(平成31年)4月14日(日) 10時00分～14時00分 合計で2時間程度の散策になります

《集合》JR京浜東北線・浜松町駅 北口改札前 10時集合 小雨開催(各自の判断)

《費用》交通費各自 保険と参加費用:300円 (*宝物展示室は700円、東京タワーは900円 各自)

《持物等》飲料・お弁当など持参

《概要・行程》芝・増上寺は浄土宗の大本山。新装なった大門、2015年開館の宝物展示室(英国ロイヤル・コレクション所蔵の「台徳院殿霊廟模型」他)など新しい話題も豊富です。東京タワーは昨年で完成60年、今でも東京のシンボルとしての人気は不動。外階段を歩いて登れます! 行程は浜松町駅⇒大門⇒増上寺(三解脱門など参拝・見学)⇒丸山古墳⇒芝公園(昼食休憩)⇒東京タワー⇒地下鉄神谷町駅で解散予定。

《申込・問合せ》①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームでお願いします。

②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③FAX: 048-470-2758 も可能

海の正倉院・沖ノ島

玄界灘に浮かぶ沖ノ島には国宝だけでも 8 万点余の遺品があり、そこには 4 世紀後半からの古代祭祀の原風景が「手つかず」の形で残されています。

朝鮮半島との交流において「海ノ中道」としてある沖ノ島における祭祀はいったい何を意味していたのでしょうか。

現地沖ノ島において調査をされてこられた椋山林繼先生に、スライド映像と共にお話しを伺います。

講 師 ^{しげつぐ} 椋山林繼 先生 國學院大學名誉教授
・祭祀考古学会会長

日 時 平成 31 年 (2019 年) 4 月 21 日 (日)
午後 1 時 30 分～3 時

場 所 当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)
大宮公園駅下車徒歩 5 分

参加費 300 円

申込み 往復はがきに講演会名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館・友の会宛へ、4 月 10 日までに申し込み下さい。
定員 150 名を超えた場合はお断りすることがあります。
※「友の会ホームページ」の「申し込みフォーム」からも応募できます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会